



# 2100カロリーと

# 17円 の食事

トウモロコシ・大豆混合品を食べる子どもたち  
©UNHCR Kakuma

カクマ難民キャンプにおける  
食事



食糧配給所  
©UNHCR Kakuma



ひよこ豆を使った料理  
©UNHCR Kakuma

## ケニア・カクマ難民キャンプ

ケニアとスーダンの国境沿いにあるカクマ難民キャンプには約6万人の難民がいる。彼らは1ヶ月に2回、食糧の配給を受けている。その中身は、ひきわり小麦(210g)、小麦粉(210g)、植物油(25g)、塩(5g)、豆(60g)、そしてトウモロコシ・大豆混合品(55g)である。

食糧の内容は「美味しさ」や「好き嫌い」ではなく栄養価で決められる。UNHCRでは2100カロリーが基準であり、ほかにタンパク質やミネラルなどのバランスが考慮される。2006年3月の相場では、この組み合わせで1人1日17円である。時折、落花生やひよこ豆の配給があるが、いつもは3~4種類の穀物類の組み合わせで食事を作る。もちろん新鮮な野菜はめったに手に入らないし、魚や肉は言うまでもない。それでも難民は、生きるために食べる。山田シェフはアフリカの難民キャンプに、「食べる喜び」をもたらすことができるだろうか。

Food



日田天領水

## 難民キャンプの 井戸120本

株式会社 日田天領水

「多くの方に『日田天領水』を愛飲していただき、世界中の人々に健康になって欲しいと願い、何かお礼ができないかと考えていました。そんな時、世界各地の難民への給水事業の話を目にしました。私たちが支えてくださっているお客様からいただいた優しさで、給水事業を支援することによりお返しができるのではないかと考えています」

2003年より毎年、難民キャンプの給水事業を支援。2007年までに、約24万人の生活を支える井戸120本分に相当するご支援をいただいている。

関連情報：  
<http://www.hitatenryosui.co.jp/unhcr.htm>



タンザニアの難民キャンプ  
きれいな水が難民の生活をささえる  
©UNHCR/L.Taylor

Food



うれしいを、しっかり。

## 社員食堂で 2400食

株式会社 ジェシービー

「うれしいを、しっかり。JCB」という企業スローガンにかけて、社員食堂で難民支援キャンペーン、「食べることから始める社会貢献～うれしいは難民のため、しっかりは自分のため～」が実施された。キャンペーンメニューを選ぶと、売上げの一部が日本UNHCR協会を通じて、世界の難民支援活動に役立てられるというしくみ。「100円で、1人の難民に3日分の食事を届けられます」とアピールし、社員が気軽に参加できる社会貢献として、1ヶ月の開催期間中に、キャンペーンメニューおよそ2400食のご協力をいただいた。

関連情報：  
<http://www.jcb.co.jp/>



©日本UNHCR協会